

作文の部

岩手県内水面漁連会長賞

川の体験学習にて

興田小学校 六年 小山 穂玖乃

七月十三日、川の体験学習で興田川へ砂鉄川しに行き、水生生物調査とヤマメの放流を行いました。

生物調査では、トビケラ類、コオニヤンマ、ヒラタドロムシ類、タニガワカゲロウ類など、きれいな水にすむ様々な生き物を見つけるところができました。その時、私は以前にも行った生物調査とちがうところがあることに気が

つきました。たまたまがもしれませんが、前に見つけた、きたない水にすむミズカマキリやタニシなどが、どの班の調査でも見つかってなかつたのです。私はこのことから、興田川は以前よりもきれいになっているのかも知れないということに気が付いたのです。興田川はきれいで、私にとっては、やはり、自まんの川です。

私の家は、興田川のすぐそばにあります。ですから、大雨なにかふって川が増水すると

とても怖く感じます。増水した川を見ていると、家の中まで浸水してくるのではないかと心配になります。

また、実際に土手がくずれれるなどの被害も今までにはあり、川のそばに建っている建物がくずれてしまうことや、魚のすみかが失われることを時々考えてしまいます。

でも、いつものおだやかな川にもとると、興田川は優しい面を見せてくれます。通学路の橋の上から魚が泳いでいるのが見えます。

春から夏にかけては、カモの親子が泳ぎの練習をしています。そして、マユの解禁日になると、おじさんがアユを釣ってきて、塩焼きにして食べたり、鮭がのぼってくる時に、いらのしょう油づけにして食べたりして、興田川がきれいでも良かったなあと感じることがあります。きれいだからこそ、受け取ることができる興田川からの、すてきな贈り物だと思います。自然が育んでくれた、興田の宝物だから、これからもずっと大切にしようとしてい

きたいです。

このきれいで自然が産んでくれた川を、自分達の手でよごすなんて考えられません。

私は、大好きな興田川とそこにすむ生き物のために、自分にできることを探したいと思っています。

体験学習の最後は、ヤマメの稚魚の放流でした。ヤマメの稚魚はかわいくて、川に放すのがもったいないなく感じましたが、「元気になってもとどってきておい」という気持ちで放

流しました。ヤマメの稚魚は興田川そのもののよゆうな気がしました。この学習から、新たな発見ができて、本当に良かったと思います。